

2. 体育学研究科修士課程体育学専攻担当教員研究領域等一覧

【専任教員】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研 究 指 導 担 当 教 員	小 澤 雄 二 （教授）	・身体教育特講演習Ⅰ ・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習（柔道）	1) 安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 2) 柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 3) 柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の3つの方向から主に研究を行っている。
	梶 ち か 子 （教授）	・コープ特講演習・実習 ・身体教育特講Ⅰ ・スポーツ教育学特講 ・スポーツ教育学特講演習	保健体育科教育学，舞踊教育学を専門分野とし，学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに，授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発，授業改善に向けての授業実践等について，量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。
	北 村 尚 浩 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ社会科学特講 ・生涯スポーツ学特講演習 ・スポーツ社会科学特講演習	スポーツを中心としたレジャー・レクリエーションの社会科学的研究を主要研究領域とし，生涯にわたるスポーツ・ライフスタイル形成の視点から，特に学校での教科体育や運動部活動をはじめ，スポーツ少年団や地域スポーツクラブなどにおける青少年スポーツのあり方や，レジャー・レクリエーションの社会的意義について検討している。
	金 高 宏 文 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・コープ特講演習・実習 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。現在は，各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術，その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で，スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取り組んでいる。
	高 井 洋 平 （教授）	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習	発育期の子ども，高齢者およびスポーツ選手を対象に，身体組成，筋機能および運動能力におけるトレーナビリティに関する研究を，運動生理学およびバイオメカニクスの手法を用いて行っている。
	高 橋 仁 大 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・コーチング学特講演習（テニス） ・スポーツパフォーマンス学特講演習	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびにPerformanceAnalysisを行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法，またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室の研究で終わることなく，スポーツの実践場面に貢献できるような，フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	竹 中 健太郎 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・武道指導論特講演習（剣道） ・スポーツパフォーマンス学特講演習	我国発祥の伝統運動文化である武道（剣道）において，その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求，構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因，あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し，剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から，後世への伝承の方法論について検討している。
	田 巻 弘 之 （教授）	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツ生理学特講 ・身体科学論特講演習（生体ダイナミクス）	疲労及び筋持久力の改善に関する神経-筋系の制御機構や，運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか，どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。
	中垣内 真 樹 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習	中高齢者を対象として健康づくり，介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し，実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	永 原 隆 （教授）	・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講 ・コーチング学特講演習（陸上競技（トラック））	スポーツ科学を研究領域とし、競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし、子供から高齢者、アスリートを対象として、スプリント走の機序、評価法、効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また、研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	中 村 夏 実 （教授）	・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・コーチング学特講演習（海洋スポーツ）	海洋スポーツ種目（特にボート、カヌー）における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら、国際的な競漕力の獲得を目指すユニバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。 一方で、海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。
	中 本 浩 揮 （教授）	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習	スポーツの熟達化をテーマとし、優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について、心理物理学、生理心理学的手法を用いて研究を行っている。
	沼 尾 成 晴 （教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し、呼吸や血液指標（生化学指標、アディポカイン）などを用いて、急性運動や慢性運動のエネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝）に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また、中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法、またその効果についても検討している。
	廣 津 匡 隆 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について、特に膝・足の下肢や肩・肘の上肢のスポーツ障害を中心に、その病態・予防法・治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し、メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより、障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。
	藤 井 康 成 （教授）	・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について、特に肩・肘の上肢、膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に、その病態や治療法、予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して、体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。
	藤 田 英 二 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・ヘルスサイエンス特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・運動処方論特講演習	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング、および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは、特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや、そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは、健康高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	堀 内 雅 弘 （教授）	・スポーツ生理学特講 ・スポーツ生理学特講演習	専門領域は運動生理学（呼吸・中心循環、および末梢循環応答）、および環境生理学である。具体的には、運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために、環境要因（低酸素・暑熱等）を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに、これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前 田 明 （教授・副学長）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャシステム、ハイスピードカメラ、フォースプレート等を用いてバイオメカニク的に動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクの見地から考察する。
	三 浦 健 （教授）	・コーチング学特講演習（バスケットボール）	球技スポーツにおける技術面、戦術面、試合の運営等に焦点を当て、実践活動に直接寄与する知見を、数値データや画像データを提示することにより、「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。
	森 司 朗 （教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習	1) 幼少年期の心身両面からの運動発達 2) 運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 3) コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 4) 脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研 究 指 導 担 当 教 員	吉 田 剛一郎 （教授）	・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・スポーツ生化学特講 ・スポーツ生化学特講演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし、その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
	與 谷 謙 吾 （教授）	・スポーツ生理学特講 ・身体科学論特講演習（身体機能論）	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて、時間的側面（反応時間）から中枢（神経系）や末梢（筋系）の時間要素に区分して評価し、各系でのトレーナビリティ等について研究を行っている。
	和 田 智 仁 （教授）	・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・スポーツ情報学特講 ・スポーツ情報学特講演習	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし、慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化、スポーツ現場におけるタブレット活用、映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	赤 澤 暢 彦 （准教授）	・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習	一般中高齢者からアスリートまでを対象にして、トレーニングやコンディショニングに関する研究を行っている。主に、動脈硬化や認知症の予防・アスリートブレインなどを中心に、生理生化学アプローチにより、トレーニングの効果やそのメカニズムを明らかにして、健康維持増進やパフォーマンス向上をねらいとした研究に取り組んでいる。
	幾 留 沙 智 （准教授）	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習	パフォーマンス向上に関連する内容として、運動の素早い修正方略及び修正メカニズムの解明、練習の質を高める心理特性の解明に向けて実験法や質問紙調査法を用いて研究を行っている。またパフォーマンス発揮に関連する内容として、メンタルトレーニングの効果検証といった実践研究に取り組んでいる。
	石 原 豊 一 （准教授）	・スポーツ科学英語特講	サッカー選手や野球選手の巨額の契約での移籍が世間を賑わせています。アスリートはなぜ国際移動をするのか、私の研究テーマの興味はここにあります。ただし、とくに焦点を当てているのは、メジャーリーガーの大谷選手のような「ビッグディール」での移動ではない「普通の」アスリートの移動です。日本からの移動とは逆に、近年は途上国から日本への移動も様々なかたちで起こっています。そのような移動を研究していく中、国際開発とスポーツというテーマにも遭遇しました。
	小 崎 亮 輔 （准教授）	・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習（柔道）	柔道に関連した研究を実施している。これまでに実施してきた研究のテーマは以下のとおりである。 1. 障害児を対象とした発達支援活動である「柔道療育」の効果の検証 2. 柔道における段階的かつ細分化された指導方法の検討及び開発 3. 柔道高段者及び中高齢実践者の健康状態に関する研究 4. 柔道競技における競技映像分析ツールを用いたパフォーマンス評価
	小 森 大 輔 （准教授）	・コーチング学特講 ・コーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））	陸上競技における効果的な指導方法や跳躍種目で要求される体力要素について研究を進めている。その中でも、リバウンドジャンプや立五段跳等のパフォーマンスと関係性のある能力を向上させるためのトレーニング方法について探求している。
	坂 中 美 郷 （准教授）	・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・コーチング学特講演習（バレーボール）	バレーボールにおけるパフォーマンスの向上を目的とした練習方法、コーチング方法、チームビルディングについて研究を行っている。また、選手個々人のパフォーマンスと、メンタルコンディションや身体コンディションとの関わりについて研究を進めている。
	隅 野 美砂輝 （准教授）	・スポーツ経営学特講演習	主にプロスポーツに関するスポーツ経営学やスポーツマーケティングについて研究している。その中でもスポーツファンを対象に消費者行動研究の手法を援用し、その行動の解明に取り組んでいる。
	藤 井 雅 文 （准教授）	・スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・コーチング学特講演習（野球）	野球における以下の3つの項目についての評価方法、ならびに効果的なトレーニング方法およびコーチング方法について、実際の指導現場をフィールドにして研究を進めている。 1) 走攻守のパフォーマンスについて 2) 攻撃戦術および守備戦術について 3) 選手が向上するためのチーム（環境）作りについて
	村 上 俊 祐 （准教授）	・コーチング学特講 ・コーチング学特講演習（テニス）	テニスにおけるサービスやグラウンドストロークの技術評価に取り組んでおり、そうした評価やニーズ分析に基づいたトレーニング実践による競技力向上の過程に関する研究を進めている。また、テニスの指導者講習を实践するとともに、より効果的な指導者養成プログラムについても検討している。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	山 下 龍一郎 （准教授）	・ コーチング学特講 ・ コーチング学特講演習（体操競技）	スポーツ運動学の理論に基づき、実践に定位した研究を行なっている。主に体操競技について、技術や動きのコツとカン、技の狂い、動きの習熟、修正を対象とした発生的分析、動きの生成と消滅の過程に関する静態的分析、動きの構造、競技規則等に関する構造分析を行なっている。一般的にいう意識的（顕在的）な内容だけでなく、無意識的（潜在的）な内容の解明を進める。
	宮 崎 輝 光 （講師）	・ スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・ スポーツバイオメカニクス特講 ・ スポーツバイオメカニクス特講演習	さまざまなヒトの運動について、パフォーマンスの向上や傷害予防に関わるバイオメカニクスの要因の解明をテーマとして研究を進めている。主に、走・跳・投といったスポーツ動作を対象に、動作分析やシミュレーションなどのバイオメカニクスの手法を用いて取り組んでいる。

② 授業担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
授業担当教員	濱 田 幸 二 （教授）	・ コーチング学特講演習（バレーボール）	バレーボールのゲーム分析、主として攻撃戦術のパターン化と守備戦術のシステム化のために、データ蓄積と解析を重ねている。この過程から戦術トレーニングの方法開発を進め、コーチング現場へのフィードバックと戦術構造から考えられるチームビルディングを検討している。
	前 阪 茂 樹 （教授）	・ 武道指導論特講 ・ 武道論特講 ・ 武道指導論特講演習（剣道） ・ 武道論特講演習	武道（特に剣道）を単なる「競技」ではなく、「日本の伝統的運動文化」であるという視座にたち、武道について歴史性・文化性などを俯瞰し、指導論へと発展させていく。 特に、 1. 古伝書等に記述されている内容の吟味と現代的解釈。 2. 武道修練の構造の理解と「師弟同行」の精神に基づく実践・検証。 などを検討・確認しながら、「修証一如」の修行論・指導論を展開する。
	栗 山 靖 弘 （准教授）	・ スポーツ科学リテラシー特講 ・ スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・ コープ特講演習・実習	教育社会学とスポーツ社会学の立場から、強豪校と呼ばれる高校の運動部活動における、スポーツ推薦入試を利用した大学進学について研究している。特に、高校生の進路形成と選抜に関する研究を背景として研究を行っている。
	吉 塚 一 典 （准教授）	・ コーチング学特講演習（陸上競技（トラック））	陸上競技の中・長距離種目を中心に、パフォーマンス向上のための研究に取り組んでいる。特に中・長距離選手を持持久力を向上させるためのトレーニング方法、および暑熱環境下における体温上昇を防ぐ対策について検討しており、競技パフォーマンスを発揮するための実践的な研究を行っている。
	日 下 知 明 （講師）	・ スポーツ科学リテラシー特講 ・ スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・ スポーツ社会科学特講 ・ スポーツ社会科学特講演習	スポーツ政策に関する研究を専門とし、特にスポーツ政策における政府部門と民間部門の関係について研究している。具体的には、地方レベルのスポーツ政策における地方自治体と民間スポーツ組織の間に形成されている官民連携・協働関係やその統治の在り方について研究を行っている。
	古 瀬 裕次郎 （講師）	・ ヘルスサイエンス特講 ・ 公衆衛生学特講演習	多くのヒトの集団を対象に、健康に及ぼす運動の効果や体力との関連を検証している。中高齢者を対象とすることが多く、疫学手法を用いる。公衆衛生学の中でも、高齢者を対象とした予防医学・運動疫学の分野を得意とする。現在の研究課題は、高齢者の体力低下を示す早期リスクファクターの解明である。
	笹 子 悠 歩 （講師）	・ スポーツパフォーマンス学特講 ・ コーチング学特講演習（海洋スポーツ） ・ スポーツパフォーマンス学特講演習	海洋スポーツに関する研究を中心に行っている。具体的には、自然体験活動としての海洋スポーツの安全な実施方法に関する研究や、トレーニング科学の視点から、ヨットやウィンドサーフィンをはじめとした、海洋スポーツの競技力向上のための実践研究に取り組んでいる。
	塩 川 勝 行 （講師）	・ コーチング学特講演習（サッカー）	サッカーの育成年代における技術、戦術的なトレーニング、コーチングの研究及びサッカーにおけるフィジカルコンディショニングの検討を行っている。 また、試合の映像編集・分析を基に、攻撃戦術、守備戦術を考察し、競技力向上に結びつく実践的なトレーニング方法・コーチング法を検討している。

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
授 業 担 当 教 員	中 谷 太 希 （講師）	・ コーチング学特講演習（体操競技）	体操競技に関連した研究を行っている．主に，大学生体操選手を対象とした技のコーチングや採点傾向，技の成立判定に関する研究を行っている．また，自身のコーチング事例を例証とした指導者の実践知の獲得過程について研究を行っている。
	成 田 健 造 （講師）	・ スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・ コーチング学特講演習（水泳）	水泳における力学、特に流体力学を専門とし、水泳中の抵抗力評価をメインテーマとしている。そのテーマの中で、抵抗力・推進力の大きい泳動作の特徴や、身体形状・組成との関係を近年は研究している。また、上記以外にも、水泳のトレーニング学や指導方法などにも取り組んでいるため、水泳全般が私の研究領域といえる。
	前 村 かおり （講師）	・ コーチング学特講演習（バスケットボール）	バスケットボールを対象に、競技力向上および競技現場で生じる課題を科学的に解決するための実践研究を行っている。ゲームパフォーマンス分析や実験研究を通して、リバウンドやボックスアウト、スティールなどの攻防技術の解明と、指導法やトレーニング方法の開発を進めている。また、自らのコーチング実践を基に、チームビルディングや組織マネジメントに関する研究にも取り組んでいる。
	棟 田 雅 也 （講師）	・ スポーツ科学リテラシー特講 ・ スポーツ科学ナレッジ・ マネジメント演習 ・ スポーツ経営学特講演習	スポーツビジネスにおけるマネジメントおよびマーケティングに関する領域を研究範囲としている。具体的には、スポーツによる地域活性化を主眼として、経営学、経済学、そして社会心理学などの理論を応用した検証を進めている。また、地域社会の課題を質的、量的なアプローチから探索し、スポーツの価値が果たす役割について科学的に検討している。
	村 川 大 輔 （講師）	・ コーチング学特講演習（サッカー）	サッカー選手の優れたパフォーマンスを支える要因について、意思決定や情報収集方略などの中枢機能の観点から解明を進めている。現在は、環境情報の情動処理仮説に基づき、潜在的な知覚処理の背景メカニズムの解明に取り組んでいる。また、これらの知見を活用した効果的なトレーニング方法やコーチング方法に関する検討を行っている。このため、研究領域はサッカー全般にわたるといえる。
	山 口 大 貴 （講師）	・ スポーツパフォーマンス学特講 ・ コーチング学特講演習（自転車） ・ スポーツパフォーマンス学特講演習	自転車競技を中心に、技能改善および競技力向上に関する実践研究に取り組んでいる．具体的には，自転車競技者および指導者が有している運動技能や実践知を，簡易的な機材や映像等を用いて客観的に可視化し，その指標がどのように活用できるか検討している．その他，スポーツ用自転車を用いた安全な走行技能を修得するための指導法についても探求している。

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目
授 業 の み を 担 当 す る 教 員	国 重 徹 （教授）	・ スポーツ科学英語特講
	David Elmes （准教授）	・ スポーツ科学英語特講
	樋 口 公 嗣 （准教授）	・ スポーツ医科学特講 ・ スポーツ医科学特講演習
	萬 久 博 敏 （准教授）	・ 身体教育特講演習Ⅰ ・ コーチング学特講演習（水泳）
	石 澤 里 枝 （講師）	・ 身体教育特講Ⅰ ・ 身体教育特講演習Ⅰ ・ スポーツ栄養学特講 ・ スポーツ栄養学特講演習
	榮 樂 洋 光 （講師）	・ コーチング学特講演習（海洋スポーツ）
	坂 口 俊 哉 （講師）	・ スポーツ社会科学特講 ・ 野外教育論特講演習
	中 村 勇 （講師）	・ スポーツ人文学特講 ・ スポーツ史・運動文化論特講演習

【非常勤講師】

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目
担 授 当 業 す の み 教 を 員	大 勝 志津穂 （非常勤講師）	・生涯スポーツ学特講演習
	関 朋 昭 （非常勤講師）	・スポーツ社会科学特講 ・スポーツ経営学特講演習
	森 克 己 （非常勤講師）	・スポーツ人文学特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習 ・スポーツ法・倫理特講演習
	山 田 理 恵 （非常勤講師）	・スポーツ人文学特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習

【連携大学院】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担 当 授 業 科 目	研 究 領 域
研究指導担当教員	井 福 裕 俊 （客員教授）	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・身体教育特講ⅡA ・身体教育特講演習ⅡA	生理学・運動生理学の観点から、1）運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明、2）運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴、および3）運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。
	坂 本 将 基 （客員教授）	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講ⅡA ・身体教育特講演習ⅡA	これまでは、ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について、神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は、主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し、この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。
	塩 瀬 圭 佑 （客員准教授）	・身体教育特講Ⅰ ・身体教育特講演習Ⅰ ・身体教育特講ⅡB ・身体教育特講演習ⅡB	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について、特に下記のテーマで研究を行っている。1) 競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究、2) 生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究、3) 子どもの生活習慣と健康についての研究